

# E—6 木造プレハブ住宅の室内気候に関する研究 (第1報)

—小型住宅の夏季の室内気候について—

京都府大文家政 ○松尾 律子  
東 修三

1. 近時、急速に普及してきた木造プレハブ住宅について、その室内気候の実態を観測把握し、その成立要因の解明を試みるとともに、さらに住宅の気候調節作用にも論及して、この種の住宅の構造材料・設計計画などの検討に資することを目的として本研究を開始したものである。

2. 2種の木造プレハブ小型住宅(6畳)を供試して、室中央床上 90cmの高さでの室温および相対湿度、ならびに百葉箱内での外気温および相対湿度のサーミスター抵抗温度計・電子式自動平衡記録計および自記湿度計による長期連続自記測定を主体に屋根ならびに天井の温度さらに日射量などの測定を加えた観測を現在実施している。今回はその観測方法の概要と今年の夏季における快晴日の観測の解析結果を中心に述べる。

3. 供試住宅の快晴日における室内気候の顕著な特徴として室温は外気温に比べ、夜間は差異がないこと、および日中は幾分高いことがわかった。室温が日中幾分高いのは天井や壁面が高温であることによって説明できた。調和解析の方法を用いて室温の日変化を外気温のそれと比較したところ、室温は外気温に比べ、平均項は高く、1日項の振幅は大きく、その位相角はほぼ同じであることがわかった。これは一般の住宅の場合とは異なることで、説明を要する問題である。